



青森県埋蔵文化財調査センターの紹介です!



HPアドレス : <https://www.ao-maibun.jp/>

青森県埋蔵文化財調査センターは、道路やダムなどを造る前に、遺跡の発掘調査を行っています。これまでに青森県内の様々な歴史を明らかにしてきました。また発掘調査現場を皆さんに公開したり、遺物教材を貸し出したり職場体験の受け入れや、毎年12月には発掘調査報告会で成果の速報も行っています(今年は12月17日(金)からホームページに発掘調査報告資料を公開し、会場では実施しません)。

発掘調査の正式な成果は「発掘調査報告書」という本にまとめて、各地の図書館に置くほか、最近インターネットでの公開も進めています。当センターの仕事や近年の調査成果を紹介します。

遺跡発掘調査

(いせきはくつちょうさ)

地面の下には、現代～何万年も前までの歴史が眠っています。遺跡を掘ると、様々な時代の建物跡・穴・溝やお墓・ゴミ捨て場などが見つかり、土器・石器・鉄製品などが出土します。地元の作業員さんたちは、土を掘り下げて新しい発見をするなど、発掘調査現場で大活躍します。

地面を削って昔の建物の跡をさがします。中央の黒いところが奈良時代の竪穴建物跡です。



作業員さんが竪穴建物跡を掘り進めています。柱穴を掘る人、床や周りをきれいにする人など様々です。



約6mの正方形の奈良時代の竪穴建物跡が掘り上がりました。柱穴やカマドの跡が良く残っています。



報告書作成

(ほうこくしょさくせい)

出土した土器・石器は水洗い後、接着剤で接合し、壊れる前の形に復元します。その後、精密な図を描いたり、写真を撮ります。それらの土器・石器と竪穴建物跡やお墓の図・写真を組み合わせて、文章を書き本(報告書)を作っていきます。工事が行われた遺跡の内容は、このような「記録」となって、ずっと残っていきます。



バラバラの土器を接着剤でくっつけて壊れる前の形に復元します。部品がないところは石膏(せっこう)で埋めていきます。



定規で測って、土器の図面を作ります。実物を見たことが無い人に土器の詳しい情報を伝えるための図面です。



職員が文章を書き、発掘調査と土器・石器等の図面・写真を組み合わせて本(報告書)を完成に近づけていきます。



3月頃に発掘調査報告書が完成します!

新しい調査成果

(あたらしいちょうさけっか)

令和元年には、北と南の文化が入り混じる古墳時代の墓が、七戸町猪ノ鼻(1)遺跡から見つかりました。令和2年には、平安時代の竪穴建物跡のカマドの煙出し穴に、方頭大刀(ほうとうたち)と呼ばれる貴重な刀が突き刺さったまま出土した八戸市法霊林遺跡が注目されました。

古墳時代のお墓!

七戸町猪ノ鼻(1)遺跡



底の両側に柱穴があるお墓は北海道の「続縄文文化」の影響です。



円形のお墓に南の「古墳文化」特有の土師器や飾り用の玉が入っていました。



古墳文化のもの 続縄文文化のもの

見つかった6基のお墓からは、県内最古の鉄製品(刀子)やガラス玉、赤い高坏など、南の古墳文化の遺物がいっぱい見つかりました。3世紀後半～4世紀前半頃の青森県には、前方後円墳を造らない有力者がいたようです。

大刀、全国初の出土例!

八戸市法霊林遺跡



かまどの煙出し穴を縦に掘った様子。方頭大刀の握る部分が上、先が下になっています。

当時の中央政府から「鍛夷(えみし)」と呼ばれた人々の奈良時代～平安時代の村です。一辺8mほどの一番大きな家が燃やされた状態で見つかりました。土器(土師器・須恵器)・鉄製品・炭化した米などが出土したほか、カマドの煙出し穴から「方頭大刀(ほうとうたち)」と呼ばれる刀が、木の鞘に入ったまま、出土しました。全国でも例を見ない、初めての出土状況です。



鍛夷は、宝物である貴重な刀をカマドの穴に突き刺して、何を願ったのでしょうか? これから研究を進めていきます。